

3  
March  
2017

特別付録!! 掲載250台オーバー  
『スーパーチューンドコレクション』別冊

OPTION 2017年3月号(毎月26日発売) 1月26日発売  
第37巻第3号 通巻482号 1981年8月3日 第3種郵便物認可

初回から大記録!!

帰ってきた

0→300km/h



注目の出展マシンから257台を厳選!!

TOKYO AUTO SALON  
2017

# まるごと一冊 東京オートサロン

TOKYO AUTO SALON 2017  
超速報

新たな挑戦が始まる!!  
**第二世代GT-R**



創刊35周年

AIM GAIN GT  
NISSAN R35 GT-R

NEW COMER続々!!  
86/BRZ最前線

超リアルモーダーの作品  
ホットマシンコンテスト

なぜ激減!? 沖縄のオービス事情  
新SSR情報局

Heat Up  
D1GP



王者の挑戦!!

NEWマシン・コルベットの戦闘力は?



ポートはフジタエンジニアリングのスペック5。タービン交換車両との相性を追求した人気のサイドポートメニューだ。タービンは低速域から鋭く立ち上がりせるため、TO4Sをチョイス。まだ慣らしが終わっていないので、セッティングや計測はこれからだが、藤田さんによる「450~480psは狙えるはず」という。

## 高次元の美しさと速さを求めた スーパーストリートFD3S



「ベースストリートRX-7に仕立てて欲しい」とリクエストしていた。エンジンは基本的にフジタエンジニアリング代表の藤田さんによると、「これからもトラブルフリーでチューンドRX-7に乗り続けるには、熱害を軽減したい」と、タービンは純正シーケンシャルツインからTO4Sシングルに変更。エンジンはサイドポート加工を施し、450psを発生する。これと並行して、エクステリアの大幡なエディファイも敢行。こちらは萩原さんがデザイナーとしてのセンスをフルに發揮し、パーソナリストがシンプルだと、ローフォルムが引き立つから」と言うことだ。最後まで悩んだりヤセクションは、あえてボディ同色の純正を選択。「ボネットがシンプルだ」と、ローフォルムが引き立つから」と言うことだ。

萩原さんが完成した愛車と久々に対面したのは、年末年始の連休が迫った12月下旬のこと。イメージどおり、シンプルにワイド&ローを構築したスタイルに大興奮。エンジンは「慣らしが終わるまでは絶対に回しゃダメ」と念押しされていたため、我慢しているが低回転域でも十分にレスポンスの良さを感じる。いまはとにかく、30000rpmの慣らし期間の終了が待ち遠しくて仕方がないようだ。



**YOKOHAMA WHEEL  
HAGIWARA RX-7  
[FD3S]**  
YFC 03-3431-9981  
<http://www.yokohamawheel.jp>

**Super Tuned File #17**



車内はブルーのブリッド製フルバケ、マツダスピードのカーボンパネルなどでコーディネート。FD3Sはリヤセクションの剛性不足が指摘されるため、ナイトスポーツのロールバーを組み込み、剛性アップを図っている。



フロントフェンダーは藤田エンジニアリングのブリスター・キットを組み込み、ワイド化。10J×19+22の「アドバンレーシングRS-RFプロゲッジ」を装着。タイヤは255/30R19のアドバンオバ(ADO8R)だ。



ウイングは以前に萩原さんがデザインし、パルススポーツが製作したワンオフ・ドライカーボン製で、上段はトリプル、下段もダブルという多段ラップ構造となっている。今回、フェンダーワイド化に合わせて、カラーを追加してフレーム幅を調整している。

